

現地福島と関西を結んで

フクシマ事故から脱原発へ

～佐藤龍彦さん(双葉地方原発反対同盟)をお招きして～

「故郷を返せ！美しい海、山、川を返せ！俺の人生を返せ！」福島現地の人々の心からの叫びです。何もかも全て奪ってしまった福島第一原発重大事故。原発さえなければ・・・。

9月10日でフクシマ事故から半年が経ちますが、多くの労働者の大量被曝を伴う必死の作業が続けられています。事故収束の為の工程表はステップ2に移行したものの、まだ安定して原子炉を冷やせる状態にはいたっておらず、依然として新たな重大な結果にいたる危険も否定できません。また廃炉への道筋は見えないままです。

フクシマ事故では、チェルノブイリ原発事故の2～3割にも相当する大量の放射能が放出され、大地を、海を、川を汚染しました。事故被災地では深刻な放射能汚染が続いています。福島県は県全体として放射線管理区域相当或いはそれ以上の汚染地域となり、地域によってはチェルノブイリの高汚染地と同じレベルの汚染も生じました。福島県外の茨城、千葉、東京、岩手などでも汚染のホットスポットが

発見されています。また農畜産物、水産物などを通じて、放射能汚染は全国に広まっています。

私たちは福島事故後、双葉地方原発反対同盟など6団体で、「労働者と住民の安全と健康を守り、生じた被害の補償を求める」請願書を政府に提出し、請願項目の実現を迫る政府交渉を進めています。原発を推進してきた国と東電の責任を追及すると共に、私たちは、脱原発を一刻も早く実現するために、福島の人々に連帯し、共に闘いを強めていきたいと思っています。

今回、福島現地から、放射能と向き合う生活の中で、日々、闘っておられる佐藤さんをお招きします。3月11日以降、一変させられた生活、過酷な避難所暮らし、帰郷の思いは募るものの帰れぬ現実など、現地での厳しい状況やその中での苦しみや怒り、脱原発や復興への思い等をお話していただけるものと思います。私たちは、「放射能との共存」を拒否し、脱原発を目指して闘う連帯を強め、交流を深めたいと思います。是非多くの方の参加をお願い致します。



《佐藤龍彦さん》

福島県双葉郡楢葉町在住。

TMI事故以降、双葉地方原発反対同盟で活躍。

日時：9月10日（土）午後1時半～

場所：市民交流センター なにわ

主催：ヒバク反対キャンペーン

共催：若狭連帯行動ネットワーク

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

地球救出アクション97

